

2012（平成24）年9月、弘前市堀越にある堀越城跡（国史跡）の本丸東側（国道7号寄り）から、幅

約32mにわたる門跡が発見されたことが報道された。門の左右には、櫓のような建物があったとみられ、そのほかに目隠しのための塀

や本丸御殿の玄関にあたる中門廊などの遺構も見つかっており、大規模な建造物だったようだ。

堀越城は、津軽為信による津軽統一戦争の過程において、石川城や大光寺城を攻略し、津軽平野東部に進出するための前線基地として

利用された。為信が堀越城を新たな拠点にしようと計画したのは、1587（天正15）年ころのようである。この年、彼は城の大規模な改修に取りかかり、軍事機能の強化を図ったという。

堀越の地は、石川・平賀 大鰐を中心とした「東根」地域と、鼻和・大浦を中心とする「西根」地域の

を囲ったという。堀越の地は、石川・平賀 大鰐を中心とした「東根」地域と、鼻和・大浦を中心とする「西根」地域の

よると、1594（文禄3）年、為信は堀越城を修復して、大浦城から居城を移転させたという。その際、神社・仏閣や家中屋敷 商工

居宅なども同時に移転させた。堀越城は、前線基地から、城下町を備えた「政庁」へと、その姿を変えたのである。

弘前藩最初の政庁

堀越城

薦谷 大輔

（県民生活文化課
県史編さんグループ非常勤嘱託員）

境界地帯に位置していた。為信が居城としていた大浦城は、津軽平野の西に偏っており、津軽全域を支配する本拠地としては不十分であった。

（慶長5）年、為信が関ヶ原の合戦へ出陣中のさなか、板垣兵部ら重臣3人による謀反が勃発、堀越城がいつも簡単に陥落させられる事件が起きた。

しかし、1600（慶長5）年、為信が関ヶ原の合戦へ出陣中のさなか、板垣兵部ら重臣3人による謀反が勃発、堀越城がいつも簡単に陥落させられる事件が起きた。



一般公開された堀越城本丸東側門跡
(2012年9月15日 筆者撮影)

1591（天正19）年1月には、豊臣秀吉によって津軽地域に太閤蔵入地が設定され、為信がその代官になった。太閤蔵入地は、津軽平野中心部一帯に設定さ

れ、秀吉の庇護を受ける代官として、為信はこの地に統治権を及ぼしやすくなったのである。為信が堀越へ進出した背景にはこのような政治的状況もあった。

後世編さんされた資料によると、1594（文禄3）年、為信は堀越城を修復して、大浦城から居城を移転させたという。その際、神社・仏閣や家中屋敷 商工居宅なども同時に移転させた。堀越城は、前線基地から、城下町を備えた「政庁」へと、その姿を変えたのである。